

乙巳頌春

小川実三郎

祝詞

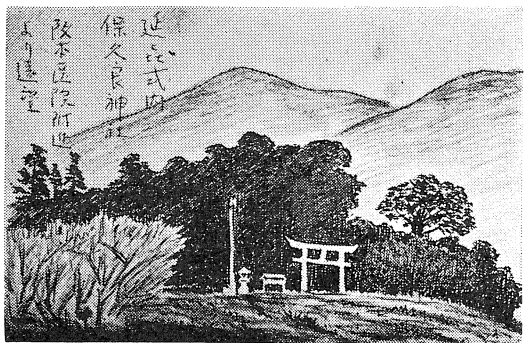
懐しい海岸通十番(但し戦災で焼失後未だに空地となつて)の一杯ロク北、京町の大通に面し九層楼のオリエンタルホテル新館が出来上つた。辰巳会一九六五新年祝賀会は此処で一月十四日百十八名の出席者を得、盛大に催された。この会合が更にお目出度かつたのは、北村、浅田、永井三氏の叙勲と、中井、町永外島、山野上、森本、藤原の六氏の藍綬褒章受章祝賀と云う辰巳会空前の盛儀が執り行なわれたからである。

昨年十一月発表された戦後始めての生存者叙勲で三氏のお名前を見た時のよろこび感激は会員諸君も私同様だったことと思う。今回の叙勲は戦後始めてのことでもあり且七十五才以上と制約があったが、若し此の様な制約がなかったなら辰巳会員中から更に何人かが叙勲の榮に輝いたことと思う。

藍綬、紺綬等の褒章は毎年一、二回発表されてるが、その都度必ずや例外なしに我が辰巳会のどなたかが受章の榮に浴されているのを見て、私は肩身の広くなる思いをし、受章された方々に心からの感謝と祝意を表して居る。

神戸商工会議所会頭

旧臘、浅田長平氏が神戸商工会議所会頭に選出、御就任相成つたことは真に慶祝に堪へない。鈴木出身者で商工会議所会頭の要職に就かれた方は、戦前藤田謙一氏が東京商工会議所会頭に、更にそのずっと以前大正時代に隅田伊賀彦氏が門司で、其後今回叙勲の北村さんが佐世保で又矢野さんは明石で永らく会頭に御就任、それに木村さんの門司と、私の記憶にあるだけでも五人の方があつた。然し今度の浅田さんの場合は、然もその鈴木門戸が閉ざされ標札がはずされてから実に四十年の歲月を経た今日、生粋のカネタツマン浅



保久良神社……筆者スケッチ

田氏が世界的貿易港商工都市に発展した神戸の実業界産業界を代表する商工会議所会頭に選出されたことは矢張り鈴木の流れは今日尚この神戸の地を脈々と流れているのではないかと、辰巳会員の感銘は一入深いものがある。

訪ソ経済使節団長

浅田さんは又先年大屋氏等と共に訪ソ使節団(団長は河合良成氏で浅田さんは餐席団員)に加はり欧露、シベリヤ各地を詳細視察され帰朝後辰巳会席上でもそのお話を承り映画も見せて頂いたが、北村さんも昨年は経済使節団長としてソ聯に行かれ

の協力、両国間貿易の拡大等々今後本邦の直面する重要課題が多々ある折柄、北村、浅田、大屋氏の如き有力者が我が辰巳会に居られることは本会の光榮とするところで衷心誇りを感じる。

鈴木商店のロシア貿易

ロシア貿易と云へば私には忘れら



永井幸太郎氏(右)と北村徳太郎氏

れない思出がある。一九一五、今から丁度五十年前のこと。第一次世界大戦の始まったのが一九一四、八月だったから、開戦一年、戦争は漸く拡大してきた。ロンドンから急遽一旦帰朝された永井さんはペトログラード駐在員として赴任された。今日のレーニングラードで当時は未だニコライ二世統治下のロシア帝国首府であつた。私は神戸本店の外国電信係として永井さんとの受信発信は全部私がおの衝に當っていたので今でも能く記憶に残っている。銅垂鉛等の軍需物資の注文が続々と永井さんから送られて来る。私のここに特記し度いのはその売約条件で値段は英貨幣、受渡はCIF浦汐、そして浦汐で船積書類を指定人に渡すと直ぐインボイス面金額全額がロンドンの銀行から鈴木商店ロンドン出張所へ支払はれると云う極めて簡明な仕組で水が流れる如くスムーズに取引が成立履行されて行つた。間もなく私は神戸からロンドンに転勤を命ぜられ、シベリヤ鉄道で赴任の

途に就いたが、途中一週間許り永井さんの処に居候：と云つてもペトログラード第一のホテルヨーロッパキーに泊つて永井さんのお仕事振りを拝見することが出来たが、何と驚いたことには、あれ程の商賈をされる永井さんは電話と小さな手帖一つだけ、然もその電話は、いつの間にか覚えられたのかロシア語である。通訳もボーイもなく只一人でドシ／＼商談を成立させて行かれるのには全く敬服した。一週間許り永井さんの御厄介になつた後、私はスウェーデン、ノルウェイを経てロンドンに到着、有名な金子親書「三井三菱と天下三分」のあの長い毛筆巻紙の書簡を高畑さんに手渡すことが出来た。ロンドンに来て私は永井さんの取極められる浦汐渡の契約品代金がロンドンの一流銀行からドシ／＼支払はれて来るのを今度はその入金記帖の役を持つた。品物は浦汐渡し、代金は英貨(当時の英貨は世界通貨として今日の弗以上であつた)でロンドン払と云うのは取引条件として完璧と云う可く、勿論品物、積出等に関するクレームなどは一切なかった。今日は情況も全く異なり、引合もプラント輸出、船舶輸出などと大規模のもので彼私の値間、受渡や支払の長

其後も引続き日ソ協会副会長(故鳩山氏の後、会長は空席のままとなつてるので北村さんが事実上の会長)として日ソ間のいろ／＼複雑な経済諸問題解決に御尽力相成つて居られることを新聞紙上で見て居るので、オリエンタル祝賀会席上、私は直接北村さんにお尋ねしたところ、即座に万年筆を走らせ、御関係の諸事業諸団体を書いて下さつた。驚いたことに半紙一杯に列記されたその数は二十有余、他に四十位あるそうだが書ききれないし即座に思出せないのである。

先づ国際貿易関係では、日ソ東欧貿易会長、前記の日ソ協会副会長、文化教育面では東京神学大学、明治学院、恵泉女学園、日本YMCA同盟、愛隣会は何れも理事長、企業経済関係の親和銀行、教文館会長、国際汽船社長などは辰巳会員で御承知の方が多いことと思う。其他理事監事取締役顧問とし御関係の団体事業は多種多方面に亘り、ソ聯東欧訪問も既に七回に及ぶとお話には全く驚いた。大蔵大臣の経歴を持たれる北村さんのこととて定めし政治政界関係でも数多の重責に當られてい

ることと思う。

日ソ文化の交流、シベリヤ開発へ

期年賦とかパーター制等の問題で容易に事が運ばれないように伝へられているが、私は永井さんの當時を回顧し感慨に堪へない。

永井さんの叙勲に際し、私は鈴木商店のロシア貿易の開拓者、功労者としての永井さんと五十年前の當時を思出した次第である。

【スケッチの説明】

保久良神社は神戸市東灘区本山町北畑の北方に聳ゆる延喜式内の社で神武御遠征の際、水先案内を司つた稚根津彦命を祭神とする。向つて鳥居の左にある燈籠は古来渡航者の安全を計つて来たもの、年中風雨にかかわらず参詣が絶えず献燈の火口は油が流れたままに固つている。社殿は戦前改築され銅葺の屋根が美しい山上は山桃の古木鬱蒼、天然記念物に指定されている。社殿の裏には盤境らしき雷岩外数個の巨岩が散在、之亦珍らしい。山中多数の土器発掘され二十数年前に出た銅鏝には考古学者が等しく驚きの眼を見張つた。

(昭四十、一、二二)